

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500233		
法人名	社会福祉法人 ときわ会		
事業所名	グループホーム ひなもり	ユニット名	蛭町
所在地	宮崎県小林市堤4380番地		
自己評価作成日	平成22年8月23日	評価結果市町村受理日	平成22年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570500233&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは静かな環境の下、ボランティアや地域の方との交流を図りながら、毎日の生活に活気が溢れ、やさしさ、温もり、安らぎのある生活を共に作っています。グループホーム東側には、温室ハウスや果樹園があります。温室ハウスは、バナナ、パパイヤ、パイナップル等、果樹園には、柿、みかん、りんご、桃、ブルーベリー等、たくさんの果物の木が植えてあり、日頃の散歩コースになっています。また、ご家族面会時には、利用者様と一緒に散歩を楽しんでいます。併設のデイにて、たまにはゆっくりと温泉に入り、美人の湯を堪能していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い丘の上にあるホームは、杉の木がふんだんに使われていて我が家らしい温もりが感じられる。窓の高さは車いす利用者の目線に合わせてあり、利用者は窓から外の景色や同法人の施設への訪問客、温泉客を見て楽しめ、時にはなじみの地域の人を呼び止めて会話が始まることもある。代表者と管理者を中心に、全職員が地域に根ざしたホームづくりに向けて積極的に取り組んでいる。また、職員の向上心も強くサービスの質の向上のためにケース記録や認知症ケアの自己学習を行ったり、各職員室の洗面台の鏡横に毎月の行事等を掲示するなど、全職員が利用者の状態把握に努め、情報を共有し支援する体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念がある。理念を玄関に掲示している。また、事務所、ホールに張り出し、常に意識付けをしている。理念を共有し、実践にむけ取り組んでいる。		全職員が理念を共有し実践できるように、ネームカードの裏に理念を書いた用紙を入れて、朝の申し送りやミーティングで話し合い、理念がケアサービスに反映できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型インフルエンザや口蹄疫により地域に出ることがあまりできなかったが、散歩時など進んで挨拶を交わしている。		保育園の運動会やハッスル教室に参加したり、地域住民に声掛けしてホームに立ち寄りてもらつたつながりはあるが、近所に住む人達との触れ合う機会が少ない。	地域住民の一人として、利用者の心身の状態、希望、季節や地域のその時々状況に応じながら、地域住民との交流に更なる積極的な取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1年間の取り組みや、現状報告を行い、意見交換を行っている。そこで出た意見について職員で話し合い、サービス向上に活かしている。		会議では職員の意見等、事業所の取組や具体的な議題を話し合う等、双方向な会議になるように配慮している。運営推進会議で出た意見は全職員に伝達し、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加を通し、取り組みや困難事例報告などを行い、問題点やわからない事等アドバイスを受けている。		ケアサービスの取組や市町村から届く文書等が理解できない時は、積極的に運営推進会議時や電話で相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		帰宅欲求や徘徊のある利用者には、目配り、気配りで利用者の安全を確保しながら本人の納得の上、抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の例はないが、園内研修を通じ、虐待防止の意識を待ち、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加で学んだことをミーティング時に伝達を行っている。また、必要性のある関係者と話し合い、活用できるよう心がけている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行っている。疑問点やわからないことがある場合、いつでも尋ねてくださいと付け加えている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会意見交換会を開催している。家族からの要望、意見は、真摯に受け止め、月1回の検討会時に職員間で話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。		常に管理者や職員は、家族の訪問時や家族会等で何でも言ってもらえる雰囲気作りに努めており、家族から出た要望に速やかに対応している。希望の利用者や家族に介護技術を伝えて喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の検討会時、職員同士率直な意見を出し合い、業務に反映させている。		代表者や管理者は、ホームの運営に生かすために、会議等で出た職員の意見や情報を把握し改善している。ホームの日誌でも利用者や職員の一日の状況がわかるため、職員の働く意欲の向上や質の確保につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の休みの希望をくみ取るよう努めている。また、常時職員の体調を配慮し、無理せず働くことができるよう、勤務調整を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、技術や知識、資格を取り、職員のレベルアップにつなげている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じ、定例会や研修などで交流を図っている。問題点や自施で困っていることなど同業者に相談し、アドバイスをもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	蛭町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に情報収集を行い、生活歴、既往歴などを聞いている。本人の話に耳を傾け、何をしたいのか理解することで安心して生活できるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に入所前に見学していただき、その中で不安なこと、希望要望を伺い、丁寧に説明している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の意見を聞き、観察し、今必要としていることは何か話し合って対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に洗濯ものを干したりたたんだりしている。また、台所に一緒に立ちできることをしていただき、日常の中で役割を持っていただいている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて状況を説明している。また、本人の要望を伝え、一緒に過ごせる時間を作れるよう外出など促している。面会時には居室でゆっくり過ごしていただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に連絡を取り、お墓参りや自宅周辺のドライブ、電話など支援している。	利用者の病院受診や外出等を利用して、利用者の行きたい場所に行けるような支援体制をとっている。また、利用者や家族等の継続的なつながりが保てるように、利用者の心温まるおきの体験談等を伝える働きかけを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の会話の中で気が合う利用者を見極め、ホールのテーブルの場所や居室についても配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	蛭町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された後もお見舞いに伺っている。また、併設の特養に移った利用者にも面会を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族面会時に要望等を聞いている。また、会話の中で思いを汲み取るようにしている。困難な方には表情などにより把握するように努めている。		職員は、利用者のその日その時の気持ちに寄り添ったケアを行うことで、言葉や表情から本人の得意なことを引き出したり、意向や思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活歴をできる限り聞き、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り(口頭や日誌への記入)を確実にし、利用者の状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の検討会で出た意見や家族とのモニタリングの実施について現状を反映した計画を作成している。		日々のかかわりの中で、本人や家族の意向を聞き、職員の意見や提案を出しながら利用者本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事、利用者の様子、体調変化の個別記録や日誌・申し送りにて職員間で情報の共有を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養、デイサービスの各種行事参加を行っている。家族だけでは対応できない病院受診や買い物、外食等、職員が柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	蛭町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出て地域の方と一緒に体操を行ったり、スーパーや外食に出かけ交流を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切に、入所前からのかかりつけ医で受診している。受診時は待ち時間が少しで済むように予約や受診時間の調整を行い適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、受診結果に関する情報の共有もできている。日ごろから利用者の健康状態に注意して、できるだけ日曜・祭日に急変が起こらないように対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日職員によるバイタルチェックを行い、日々の様子から異変に気づいたらすぐ看護師に連絡し、適切な受診を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員がお見舞いに行き励まし、医師、看護師より話を聞いている。また、電話による情報交換を行い、関係作りに努め、早期退院できるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と話し合い介護方針を職員と共有し、支援し取り組んでいる。	重度化した場合の対応のあり方については、本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員と連携をとりながら事業所が対応し得る最大のケアについて説明し、随時意志を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル(かかりつけ医、電話番号、連絡網)が電話のそばに備えつけてある。職員研修の中でも応急手当、心肺蘇生訓練を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行っている。また、地域防災協会を組織しており、地域の方の協力が得られる体制がある。	ひなもり園防災地域協力が設立されており、同法人との合同災害訓練やホームの訓練(夜間を含む)時に協力を得られる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方もおり、大きな声での掛け声を行う場合もあり、完全にプライバシーが保てているとは言えないが、利用者一人ひとりを尊重しながら言葉遣いに気をつけるよう日頃より心がけている。		職員は、利用者の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、利用者への丁寧な言葉かけを行い、一人ひとりを尊重したケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の気持ちや希望を言えるように日頃からコミュニケーションを図り、笑顔で優しく対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間は一応決めてあるが、利用者の気持ちを優先している。自室でテレビを見たり、ベッドで休んだり一人ひとりが自分のペースで生活できるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は好みの洋服を選んでいただいている。また、一緒に選んだりしている。月一度の理容は外部から来ていただいている。切る、切らないは本人の意思を確認している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けを職員がする事がほとんどであるが、時に利用者と一緒に台所に立ち野菜の下ごしらえ等をしてもらっている。	汁物等はホームで作り、副食の献立や調理は併設の厨房で行われている。食事時間は会話を楽しむためにテレビを消し、利用者の食事介助を行う職員と、検食の職員一人が利用者と一緒に食事をしている。	利用者と職員が一緒に食事を味わい、会話を交えながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援について、運営面を含めた配慮をしてほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士によるカロリーと栄養バランスのとれた食事を提供している。一人ひとりに合った食事形態で対応している。毎食の食事摂取量を記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きを居室の洗面台で促し、義歯の手入れも毎日行っている。			

宮崎県小林市 グループホームひなもり（蛭町）

自己	外部	項目	自己評価	蛭町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を確認し声かけや誘導を行い、失敗しないよう支援している。 夜間帯、状況に応じてポータブルトイレを設置している。	利用者一人ひとりの習慣やパターンに応じた個別の排泄支援がされている。時間誘導を行い、尿取りバットの使用だけでよかった利用者がいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。便秘しないよう飲水や運動を促している。家族が提供して下さったさつまいもをおやつの時間に出し、便秘予防に努めている。便秘になった場合かかりつけ医に連絡し、下剤を処方していただいている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めてあるが、体調や希望にあわせ随時入浴を行っている。また、併設のデイサービスにて温泉を楽しんでいただいている。	午前中に入浴をすると夜が長く感じるという利用者の希望で、午後からの入浴となっている。一人ひとりの利用者が、希望する入浴を楽しめる支援が行われている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中はできる限り余暇活動をしていただくようにしているが、本人の意思で自由に休息してもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の処方箋ファイルを作り、職員がいつでも確認できるようにしている。薬についてわからないときは薬局に確認している。また、症状の変化時には必ずかかりつけ医に報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみなど、役割を持っていただいている。毎日新聞を読む人、歌が好きな人、本を読むのが好きな人とその人に合わせて個々に支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩に出かけたりしている。本人の希望でお墓参りや家までドライブに出かけている。また、家族の協力を得、お花見に行けるよう支援している。	家族から外出や買い物の支援をしてほしいと要望があり、家族の協力を得て実現している。また、自宅訪問・宿泊は、本人の心身の状態を考慮しながら支援を行っている。同法人の温泉に出かけてうどんを食べることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のほとんどが自己管理できないため、病院受診や外出の時希望に応じて使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば家族に電話できるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風作りであり、畳、障子で利用者にとってくつろげる空間である。玄関、居室、食堂に季節の花を飾っている。畳部屋や廊下のコーナーにベンチがあり自由に使っていたいしている。	各ユニットには立体的なアートフラワーが飾られ、ホームのあちこちに利用者と職員で散歩に出かけて摘んだ季節の草花が生けてあり、生活に潤いをもたらしている。居間や廊下から眺められる風景は、風の動き、木々の変化が感じ取れる環境にある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール横の長いすや廊下の角にある畳部屋は利用者がいつでもくつろいだり、話したりすることができる場所となっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具やテレビを置いたり家族の写真飾り、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	利用者の希望に応じ、花や家族の写真、使いなれた身近な用品が持ち込まれ、落ち着いた生活空間を作り出す工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを多く取り入れてあり、自立での歩行ができるようになっている。			